

# "Connector usage in the Japanese spontaneous speech of French learners"

Madoka TANIZAWA (Tokyo University of Foreign Studies)  
& Nori KONDO (Nagoya University of Foreign Studies)



東京外国語大学  
*Tokyo University of Foreign Studies*



# 発表の流れ

1. 日本語の接続助詞
2. 学習者による接続助詞使用の重要性
3. リサーチクエスチョン
4. 使用コーパス
5. 学習者による接続助詞の過剰使用／過少使用
6. 「けど」の使用
7. 「から」の使用
8. 結論
9. 今後の課題
10. 参考文献

# 日本語の接続助詞

- 接続助詞(Conjunctive particles)は文を接続し、複文を構成する

ex. S1 CP (従属節), S2 (主節)

- 接続助詞は伝統的に多様なことを示すものとして分析されてきた
  - 主節である行動やある態度の原因及び理由を示すもの(「から」 / 「ので」)
  - 反対あるいは離接的な考えを表現するもの(「けど」 / 「が」)
  - 主節の行動や状態の実現が従属節に示される行動や状態のもとに条件づけられていることを示すもの(「たら」 / 「ば」 / 「と」)

(Haugh, 2008:425)

# 日本語の接続助詞

- ・話しことばの日本語において、従属節が主節を伴わない場合もある

“ It has been widely recognized that a subordinate clause does not necessarily have to be accompanied by a main clause in colloquial Japanese.”(Iguchi, 1998: 99)

- (6) お茶が入りましたけど (含意：食卓に来てくれる?)  
Tea-Sub marker ready-but...

(Mizutani and Mizutani, 1987:26)

- (16) おやつ, アイスクリーム が 冷蔵庫 に入ってる かな  
snacks-NOM icecream-NOM SBJ fridge-NOM in-ABL enter-PRES PC DM

(Shirakawa, 2009:10)

# 学習者による接続助詞使用の重要性

- 複文を構成するのに、接続助詞は重要な文法的要素である
- 接続助詞にはまた、多様な語用論的効果を与える機能がある  
(ポライトネス, ためらい, 強調, 誘い, 禁止など...)

# リサーチクエスチョン

- 学習者による接続助詞の使用は母語話者による使用と類似しているかあるいは異なっているか？
- 学習者による接続助詞の過剰使用と過少使用を記述する
- 学習者による「けど」と「から」の語用論的使用を調査する

# 日本語学習者コーパス

- **IPJC = Learners' Japanese speech corpus** (Interphonologie du Japonais Contemporain / InterPhonology of Contemporain Japanese)
- コーパスサイズ: 10364 語 (録音地 : NUFSS)
- フランス語母語話者7人(日本での留学の終わりに録音)
- 発話タイプ:
  - (1) 2人の学習者による自由会話
  - (2) 1人の日本語母語話者とのインタビュー

# 日本語母語話者コーパス

- **CSJ (Corpus of Spontaneous Japanese) “中納言”**
- NINJAL (National institute for Japanese language and Linguistics)によりオンラインで公開
- **コーパスサイズ:**  
CSJ(total): 7,479,773 語  
自由会話: 10,900 語
- **発話タイプ:** 自由会話



# 学習者による接続助詞の過剰使用／過少使用

	学習者	1000語あたりの 生起数	母語話者	1000語あたりの 生起数
が	4	0.385951	4	0.354484
<b>から</b>	<b>69</b>	<b>7.333076</b>	<b>28</b>	<b>2.48139</b>
<b>けれど (/けど)</b>	<b>81</b>	<b>7.815515</b>	<b>64</b>	<b>5.671748</b>
<b>し</b>	<b>8</b>	<b>0.771903</b>	<b>16</b>	<b>1.417937</b>
て	175	16.88537	159	14.09075
と	6	0.578927	21	1.861042
ば	2	0.192976	7	0.620347

# けど

- 接続助詞「けど」

- 「けど」の意味論的用法: 対比、不一致

(Itani, 1992:267)

- 「けど」の多様な用法

(Itani, 1992 ; Kato, 2013; Nagata & Ohama2001; Shirakawa,2009)

1. 不一致, Inconsistency
2. 対比, Contrastive
3. 前提, Premise
4. 挿入, Insertion
5. 非従属, Insubordinated (発話文末にて)
  - 語用論的機能
  - 発話内行為力

# 「けど」の用法

## ■ 発話の文中に出現

### 1. 不一致 Inconsistency

- (1) 山田さんは大阪出身だ**けど**、標準語を話します  
(含意：山田さんは標準日本語を話さず、おそらく方言を話すだろう)

Yamada-san-wa Osaka shusshin da-**kedo** hyojungo-wo hanashimasu.  
Mr.Yamada-Top Osaka come from-but standard Jap.-Acc speak-POL

(Itani,1992:269)

### 2. 対比 Contrastive

- (2) 私は背が低い**けど**、妹は高い

Watashi-wa se-ga hikui **kedo** imooto-wa takai.  
I-Top back-Sub low-ADJ but my sister-Top high-ADJ

(Itani,1992:269)

# 「けど」の用法

## 3. 前提 Premise

(3) 悪い**けど**お金貸してくれない？

Warui **kedo** okane kashite-kurenai ?  
sorry-ADJ but money lend-can-NEG-Q ?

(Morita,1980)

## 4. 挿入 Insertion

(4) この前貸した本を明日、もし無理だったら明後日でもいいんだ**けど**、返してくれる？

Konomae kashita hon-wo ashita, moshi muri-dattara  
last time borrow-PST book-POSS tomorrow if can't  
assatte-demo iinda-**kedo** kaeshite-kureru?

at the day after tomorrow-even good-but return-can-Q ?

(Morita,1980)

# 「けど」の用法

## ■ 文末に出現

### 5. 非従属 Insubordinated

- 主節がない
- 言語化されていない主節部分が含意されており、その含意には発話内行為がある
- 聞き手からの返答を求める、語気緩和、ポライトネスを示す

(5) もう時間です**けど** (含意：出かける準備はまだできていないの?)

Moo            jikan-desu-**kedo**..

Now-ADV time-is-but..

(Mizutani and Mizutani, 1987:26)

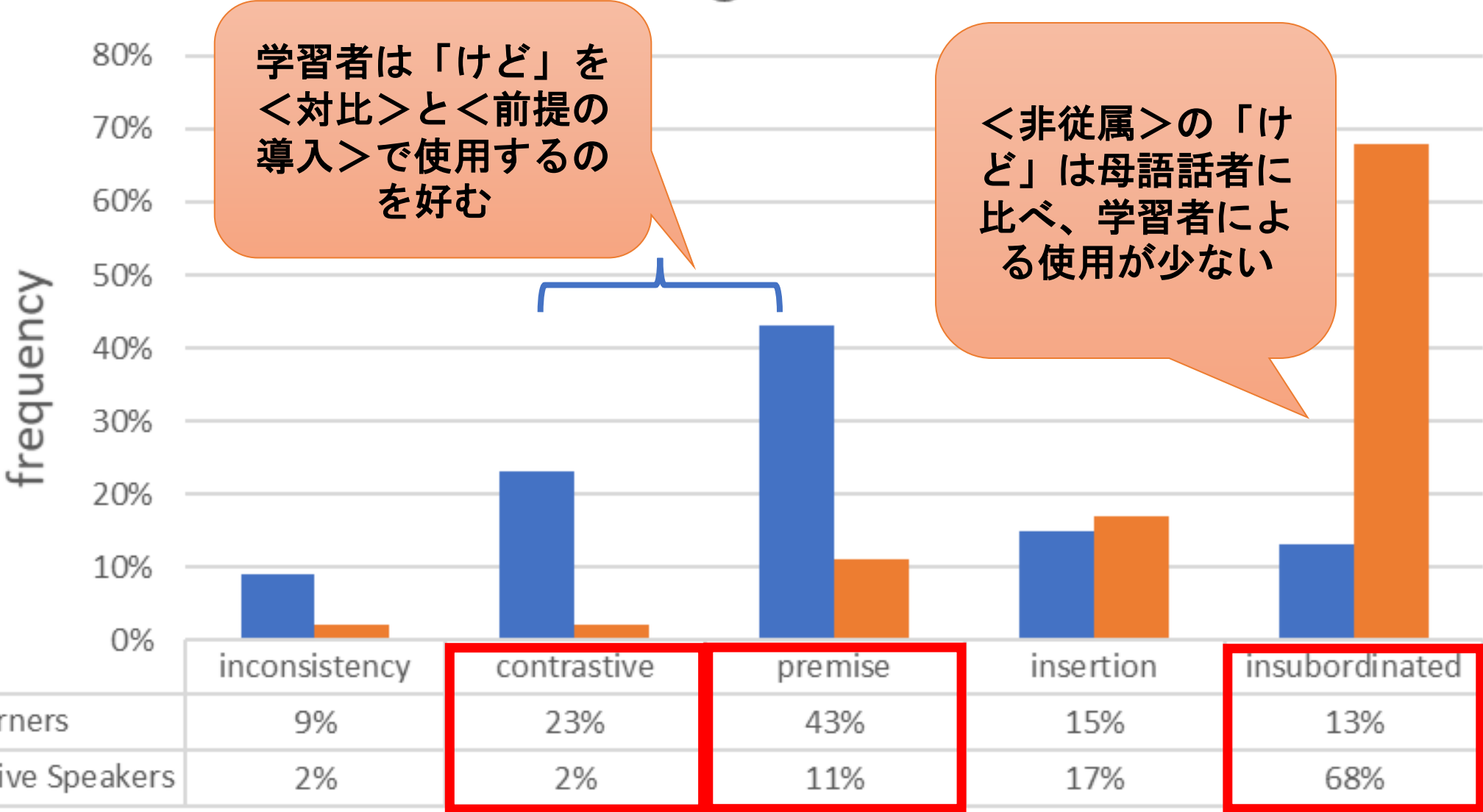
(6) お茶が入りました**けど** (含意：食卓に来てくれる?)

Ocha-ga            hairimashita-**kedo**...

Tea-Sub marker ready-but...

(Mizutani and Mizutani, 1987:26)

# Variable usage of *kedo*



学習者は「けど」を  
＜対比＞と＜前提の  
導入＞で使用するの  
を好む

＜非従属＞の「けど」は母語話者に  
比べ、学習者による  
使用が少ない

# 学習者による<対比>の「けど」の使用

なぜ学習者は<対比>の「けど」をより多く使用するのか？

- 単純な構造
- A は X **けど**, B は Y ('A is X but, B is Y')

(7) 例えば、えー、フランスでは、えー、あの、気持ち、あの自分の気持ちを表す表すことが、え、良いことなんです**けど**、日本では、あんまり、良くないことですね

(015, interview)

Tatoeba, eee, furansu deha, eee, ano, kimoti, ano jibun-no

For example, filler France in-LOC filler filler feelings filler oneself

kimoti wo arawasu arawasu-koto-ga, ee, ii-koto nandesu **kedo**,

feelings wo-POSS express- expressing-TOP filler good-thing is-POL but

nihon deha, anmari yokunai koto desune

Japan in-LOC so not good thing is-POL

# 学習者による<前提を導入する>「けど」の使用

自己の経験

フィラーと計画途中の発話

(8) [...]俺も一回 大阪に行ったことあるけどー、でもなんかまあ全然なんか 楽しかったけどー、なんかちょっとーその街の雰囲気は あんまりー合わなかった 気がする

(013, interview)

[...] Ore mo ikkai Osaka ni itta koto aru **kedo** demo nanka maa  
I-TOP also-ADV once-ADV Osaka to-LOC go-PST thing have but although filler filler  
zenzen nanka tanoshi-katta **kedo** nanka chotto sono mati-no funiki-ha  
at all-ADV filler fun-COP-PST but filler a little bit-ADV the city-POSS atmosphere-TOP  
anmari awanakatta kigasuru  
so go well-PST-NEG feel



# 学習者による<前提を導入する>「けど」の使用

なぜ学習者は<前提を導入する>「けど」をより多く使用するのか？

- 多機能(話の背景を予知する, 誤解を避ける, 「けど」の直後に来るネガティブな考えを強調する)
- 話者は従属節においてただ事実や自己の体験をリポートしているだけ
- 「けど」を続けることによって発話のターンを維持できる
- この用法における「けど」の使用の59%がフィラーやポーズにより後続されている
  - 発話者が後続する発話の計画が完了できていないことを示している
  - 「けど」により発話の継続が終了している場合も見られる

# 学習者による<非従属>の「けど」の使用

(9) なんかもやっぱりその、違いは俺もわかるけど、なんか、<なんか説明できない>なんかも言葉で表すのはちょっと、どうだろうなんかもやっぱり違う**けど**

(013,015, free conversation)

nanka yappari sono tigail-ha ore mo waku kedo nanka  
filler filler the difference-TOP I also-ADV understand but filler

<nanka setumei dekinai>nanka kotoba de arawasuno-ha chotto  
<filler explain can-NEG>filler words by expressing a little bit

doudarou nanka yappari tigail **kedo**  
filler filler filler different-COP but

- 主節がない
- 言語化されていない主節部分の含意が想像しにくい
- 発話内行為力が弱い
- 直接的すぎる

# んだ+けど

- 「~んだ」(意図的な評価付けを挿入する) + 「けど」
- 感情的な言外の意味を付加する
- 語気緩和

(10) フェナーもうちょっと近ければよかった**んだけど**  
(含意: しかし残念なことに近くはない)

Fena mou chotto tikakereba yokatta **nda-kedo...**

Fena-NOM more-ADV a little bit-ADV near-COND good-PST but

(Lee & Yoshida, 2002:234)

(11) フェナーもうちょっと近ければよかった**けど**

Fena mou chotto tikakereba yokatta **kedo...**

Fena-NOM more-ADV a little bit-ADV near-COND good-PST but

(Lee & Yoshida, 2002:234)

# 学習者による<非従属>の「けど」の使用

- この用法での「けど」の使用が何人かの学習者の発話に見られた
- 対話者に直接的で断定的な印象を与える
- 母語話者に比べ「んだ+けど」という形の使用が少ない

## 「んだ+けど」の使用

母語話者：「けど」の使用全体の内60%

学習者：「けど」の使用全体の内19%

## なぜ学習者にとって<非従属>の「けど」の使用は難しいのか？

- 学習者は「けど」をこのような語用論的な用法では学習していない
- 「けど」の他の形態（「んだ+けど」）の習得が不十分

# から

- 「から」は主として理由節を導入し、それを主節と接続する
- 「から」はある行動の条件節も導入する

(Shirakawa, 2009).

- S1 から, S2. (because S1, S2)

(12) 雨が降るから、早く帰る

Ame ga furu **kara**, hayaku kaeru

*rain* SBJ fall PCC, early go home

# から

## ・ 「から」 の用法 (Akihiro, 2016: 6)

### (1) Canonical (「から」 を伴う従属節(S1) + 主節 (S2))

(12) 雨が降るから、早く帰る

Ame ga furu **kara**, hayaku kaeru  
rain-NOM SBJ fall PC, early-ADV go home

### (2) Inversion (主節(S2) + 「から」 を伴う従属節 (S1))

(13) 早く帰る、雨が降るから。

Hayaku kaeru, ame ga furu **kara**  
early-ADV go home, rain-NOM SBJ fall PC

### (3) *Kara* utterance final (S1 「から」 )

(14) もう帰るから！

Mo kaeru **kara**!  
already-ADV go home PC

# Shirakawa (2009:11)

## 言いさし文；接続詞で終結した文(cf. Kato, 2013:11)

1) 言い残し( Interrupted/suspended/unfinished): 未知の内容部分をいくらか残した終了していない文、すべてを語らずに暗示的意味を相手に理解させる

2) 関係付け(Relating): 従属節で表される事態を文脈上の他の事態と関係づけることによって話しての事態に対する態度を表す文

(15)

— おいしい!

delicious-ADJ

— おいしい      ね

delicious-ADJ DM

— 今日            は よく            働いた      から!

today-NOM SBJ well-ADV work-PAST CP

(Shirakawa, 2009:9)

3) 言い尽くし (Autonomic) : 必要な内容がすべて従属節のみで表されている文 (文末に来る「から」は命令や、禁止、誘い、依頼を示す条件節を導入する)

(16) おやつ            アイスクリーム      が 冷蔵庫      に            入ってる      から      な

Oyatsu,            aisukuriimu            ga reizouko      ni            haitteru      *kara*      na

snacks-NOM icecream-NOM SBJ fridge-NOM in-ABL enter-PRES PC DM

(Shirakawa, 2009:10)

## フランス語の « *parce que* »

- フランス語の *parce que* は先行する発話に依存する同様の機能（関係付け）を持っている
- 主節のない *parce que* は先行する発話に結び付けられ、原因や理由を導入する (Akihiro, 2016).



# 会話における「から」の使用

- 日本語母語話者による「から」を伴う発話の統語的語順  
(Akihiro, 2016: 7)

図：「から」を伴う発話の統語的語順の使用割合 (Akihiro, 2016:7)

(1) 標準的	(2) 反転	(3) 発話文末
34,5% (116)	51, 8% (174)	13,7% (46)

# 学習者による「から」の使用

- Syntactic order of utterances with *kara* (Akihiro, 2016: 7)

Table : Proportion of syntactic order for *kara* usge

	(1) 標準的	(2) 反転	(3) 発話文末
日本語母語話者 (Akihiro, 2016:7)	34,5% (116)	51, 8% (174)	13,7% (46)
日本語学習者	69.33% (52)	4%(3)	26.67%(20)

日本語母語話者: (2) 反転 > (1) 標準的 > (3) 発話文末

日本語学習者: **(1) 標準的** > **(3) 発話文末** > (2) 反転

# 学習者による「から」の使用

## (1) 標準的語順

(17) 名古屋は日本の真ん中にあるから [...] どこにも行きやすいと思います

Nagoya wa nihon no mannaka ni aru **kara**  
Nagoya TOP Japan of center in-ABL be-PRS CP

Dokonimo iki yasui to omoimasu  
everywhere go easy CP think-POL

(006,interview)

# 学習者による「から」の使用

## (1) 標準的な用法

- 「から」は主に主節の理由や原因を導入するものとして機能する
- ある発話においては「ので」の方がより適切  
⇒ 「ので」はフォーマルな形なのでガイド付き会話により適している、  
(「ので」は客観性を表現するためにも使用される (cf. Akihiro, 2016:7))
- ある発話において「し」はより適切
- <標準的な用法>の例において、「から」を伴う従属節は2回以上繰り返されている
- ⇒ 日本語学習者による「し」の使用は母語話者と比べ少ない？

# 学習者による「から」の使用

(18)[...] やっぱり例文を作ったりするから、なんか実際の会話と違うから、  
なんかやppりか、なんか違いがありましたと [...]

(013, interview)

Yappari reibun wo tsukuttari suru **kara**,  
exemple OBJ make do-PRS PC  
nanka jissai no kaiwa to tiguau **kara**,  
filler reality POS conversation ABL different PC  
nanka yapparika, nanka chigai ga arimashitato  
filler I expect filler difference SBJ be-PRES-POL

この文脈では、同じ語の繰り返しを避けるため「し」を用いることもできる

# 学習者による「から」の使用

## (3)発話文末の「から」：「から」の使用の26.67%

- 被験者の発話文末での「から」は、そのほとんどが「から」を伴う発話が前述の発話に結び付けられるものだった。
  - ⇒ 発話をつなげる機能？ i.e. *parce que* は *parce que* を伴う従属節が前述に結び付けられるとき、主節なしに使用されることもある。 (cf. Akihiro, 2016; Akihiro, 2017)
- 言い尽くしの使用はみられなかった
  - ⇒ 習得が困難か？

# 学習者による「から」の使用

## (3)発話文末の「から」

(19)

013 : ビーチとかほんとに美しいなんかあのー

015 : え、それは人が少ない**から**？

013: Biichi toka hontoni utsukushii nanka ano  
Beech really beautiful filler filler

015: e, soreha hito ga sukunai **kara**?  
filler it is people SBJ few CP

(013,015, Free conversation)

# 結論

- 学習者は発話において多様な接続助詞を使用することができる
- 日本語母語話者の使用と比較することにより日本語学習者（フランス語母語話者）によるある接続助詞の過剰使用および過少使用が確認された
- 学習者は教科書や日本語の授業で学ぶような基礎的な用法で接続助詞を使用する傾向がある
- 学習者にとって、接続助詞の語用論的な用法の使用は難しい  
(「けど」 / 「から」)
- <非従属>的な用法に関して、学習者は統語的な形態は知っているものの、語用論的効果をそこに付加して使用することはできない



# 今後の課題

- コーパスのサイズの拡大
- 授業において学習者がどのように接続助詞を学習しているのか知る必要がある(日本語の学習過程)
- 学習者による接続助詞の使用、とりわけ語用論的な能力の発達を観察するため、経年的な調査をする必要がある

# 参考文献

- Akihiro, H. (2016). « Parce que et kara, Etude contrastive entre français et japonais basée sur des corpus oraux », *SHS Web of Conferences* 27, Congrès Mondial de Linguistique Française. [https://www.linguistiquefrancaise.org/articles/shsconf/abs/2016/05/shsconf\\_cmlf2016\\_14002/shsconf\\_cmlf2016\\_14002.html](https://www.linguistiquefrancaise.org/articles/shsconf/abs/2016/05/shsconf_cmlf2016_14002/shsconf_cmlf2016_14002.html)
- Haugh, M. (2008). "Utterance-final conjunctive particles and implicature in Japanese conversation" *Pragmatics*, 18, pp. 426-451.
- Iguchi, Y. (1998). "Functional variety in the Japanese conjunctive particle *kara* 'because'" In T. Ohori (ed.), *Studies in Japanese Grammaticalization Cognitive and Discourse Perspectives*. Tokyo: Kurosio, pp. 99-128
- Itani, R. (1992). "Japanese conjunction Kedo in Utterance-final Use: a relevance-based analysis" *English linguistics*, 9, pp. 265-283
- Kato, S. (2013). "Insubordination types in Japanese What facilitates them ?" *Asian and African Languages and Linguistics*, 8, pp. 9-30.
- Lee, D. & Yoshida, A. (2002). "Kaiwa ni okeru *nda+kedo* ni tsuite no ichi kosatu" *Sekai no nihongo kyoiku*, 12, pp. 223-237.
- Mizutani, Osamu and Mizutani, Nobuko (1987) *How to Be Polite in Japanese*, Japan Times, Tokyo.
- Morita, R. (1980). "Kiso nihongo 2". Tokyo: Kadokawa Shoten
- Nagata, R. & Ohama, R. (2001). "Setsuzokushi kedo no ouhoumon no Kankei ni tuite –hatsuwa bamen ni chakumoku site-" *Nihongo kyoiku*, 110, pp. 62-71, Nihongo kyoiku gakkai
- Shirakawa, H. (2009). "Iisashibun" no kenkyuu" [A study of "Suspended Sentences"] . Tokyo: Kurushio Shuppan.

# Acknowledgement

- This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number 16H03442.